



SAIE かわら版

国籍を超え、相互理解を深め、「つながり・きずな」を大切に



SAIE主催
イベント

参加者募集！

へー、そうだったんだ！2025万博の裏話
～マレーシアパビリオン、関西パビリオンより～

4月13日～10月13日までの184日間、55年ぶりに大阪で万博が開催されました。今回、その舞台裏で活躍された方々にお話を聞きます。レストランでのパフォーマンスが話題になった「マレーシア館」と滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・徳島・福井・三重の9府県の魅力を発信した関西パビリオンから、その様子をご紹介します。



Expo 2025 大阪・関西万博 公式webサイトより



日程：12月4日(木)午後1時半～3時
場所：コミュニティプラザ会議室1・2
定員：25名
参加費：無料
申込：協会まで電話・メールで受付

紹介者からのメッセージ

さくらまな

櫻井麻奈さん(マレーシアパビリオン)



初めまして。東大阪市に住んでいます。6月末から10月まで、万博のマレーシアパビリオンのレストランで働いていました。週一回、東大阪市の日本語ボランティアもしています。前職は日本人だけの環境で仕事をしていましたが、万博で働いてからは毎日様々な国の人と働くのが日常になり、世界が身近に感じるようになりました。今後も日本人と海外の人がコミュニケーションしやすいよう、力になりたいと思います。

くさかずみ

日下和美さん(関西パビリオン)



大阪市在住。摂津市には25年程住んでいました。これまで金融機関・病院・自治体等で勤務致しました。長年住んでおります大阪の地で国際博覧会が開催決定したと聞いた時から自分も万博で何か携わりたいと思い、シニアではありますがアテンダント業務に応募。縁あって「関西パビリオン」で勤務致しました。講座ではつたない内容になるかとは思いますが私の体験談をお話させていただきます。

SAIE主催
イベント

参加者募集！

国際理解講座

ホセッチから聞こう、文化の違いって面白い！



～アメリカから来て20年、日本で家庭を築いた僕が語る国際交流～



僕はこう思う。私はこう思う。毎日の生活の中で起こる喜びやハプニング。あなただったらどう感じますか？文化が違えば、伝え方も違い、どう伝えたらお互いを理解できるでしょうか？言葉？ジェスチャー？それとも...？日本人と国際結婚して、日本に住むホゼアさんから面白く、楽しくお話を聞きませんか？新しい発見を一緒に楽しみましょう！

講師紹介

京都工芸繊維大学の英語教育者。「Hope for Japan」の創設者。家族と地域社会のつながりを強化し、自殺防止を目指す活動を展開中。「希望」「レジリエンス(回復力)」「困難の乗り越え」をテーマに、アフリカ系アメリカ人コミュニティの研究に取り組んでおり、その知見を他の社会・文化に応用する道を探っています。専門は「エンパワメント(人々を力づけること)」。アフリカンステップダンスやゴスペル音楽の歌手・講師としても活躍し、またエスニック料理の講師として多彩な才能を発揮しています。さらに、詩人・著者・シンガーとしての顔も持ち、言葉と音楽を通して人々の心に希望を届けています。子どもから大人まで、一人ひとりの個性を尊重し、それぞれの持つ力を生かせるクリエイティブで包摂的な社会づくりを目指しています。

日程：2026年1月29日(木)午後1時半～3時

場所：コミュニティプラザ会議室1・2

発表者：ホゼア・ベーカーさん

(同志社大学大学院・グローバル・スタディーズ
研究科の現役大学院生)

定員：25名

参加費：無料

申込：協会まで電話・メールで受付

イベント報告

JOCA大阪講演会



アラブの世界遺産大国「ヨルダン・ハシミテ王国」とは？

講師：末岡直樹さん（青年海外協力協会 JOCA 大阪）

開催日：9月30日（木）午後1時半～3時

開催場所：コミュニティプラザ会議室1・2

参加者：20名

ヨルダンって
どんな国？

参加者の感想

- ヨルダンの人口構成、移民難民の流入の話（ベドウィン、パレスチナ人、イラン人、シリア人、ロシア人も多い）、オモシロイ！衣料品が第2の輸出物で中国企業が作っている。オモシロイ！
- 現在の国際情勢を見るとそれぞれの国の成り立ちや歴史を知る事が必要だと思えました。特に中東の不安定さはこれからも続くように思った。その中で生きていく子供たちは悲惨です。教育を受けられるよう平和な社会を願う昨今です。
- 一般法が宗教法よりも優先している。
- 複雑な地域にあるヨルダンのいろいろなこと、魅力が知れてよかったです。
- 中近東のことについては普段あまり理解できていないので、新しい発見があり興味をもって受講できた。

※ JOCA = 青年海外協力協会

- 首都：アンマン
- 人口：1,139万人（2024年）
- 言語：アラビア語
- 宗教：イスラム教93%、キリスト教7%
- 気候：季節は春、乾季、雨季の3季
- 国花：ブラックアイリス
- 面積：北海道と同じくらい。アラビア半島の根元にあり、サウジアラビア、イラク、シリア、エジプト、イスラエルに囲まれている。
- アラブ料理の主食はホブス（原料：小麦粉）だが、ヨルダンでは米もあり日本人には馴染みやすい。スープにおくらやレンズ豆、モロヘイヤなどを使う。野菜は豊富。
- カタイエフという断食月にしか食べない甘いお菓子がある。
- 王室の人もスーパーで買い物をしている。
- 移民が増えているが、イスラムの預言者ムハンマドの直系であるハシミテ家の王が統治するからもっている国であるため非常に安定している。
- 石油は出ない。リン鉱石が輸出入出品のNo.1。



ブラックアイリス



カタイエフ

友好都市 オーストラリア・バンダバーグから訪問団来摂！



協会からは中井会長のほか都市交流部会の理事らがモーニングティーや歓迎会に参加したほか、関西国際空港での出迎えや見送りに行くなど摂津市の行政職員らとともに交流を図りました。また、訪問団の皆さんには、協会から記念品として、銘木で作った箸置きやリングスタンドなどの雑貨をプレゼントしました。

摂津市の友好都市・オーストラリア・バンダバーグの行政訪問団が9月21日から24日まで摂津市を訪れました。一行はスティーブ・クーパー副市長、カーメン・マケニー議員、ラリーン・ステイサム・ブレア議員の3名で、22日には市役所を表敬訪問したあと、モーニングティーを楽しみながら歓談し、市内の公共施設などを視察。夜は千里阪急ホテルで歓迎会に出席されました。23日は大阪・関西万博のオーストラリア館などを視察、24日は健都の国立循環器病研究センターなどを視察されました。



日本語教室～ボランティアさんのつぶやき～

むろたさん（せつつ日本語 SAIE、日本語サロン）

私が日本語ボランティアを始めてから出会えた学習者は、延べ 13 の国や地域に及びます。すべての人と深く関わるのは難しいですが、教室ではスモールトークを通じて様々な話を聞かせてもらえます。私はこの時間こそが日本語ボランティアの最大の魅力だと感じています。

ここでは「外国人」ではなく「学習者」と呼び、「教える」というより「共に学ぶ」

場となっています。実際、私は日本語を教える中でどう話せば伝わるかを考え、学習者が生活や文化の違いで困っていれば話を聞き、そこから前に進むきっかけを一緒に探しています。大切なのは外国語の知識ではなく、学び合い分かち合う姿勢です。私自身まだ学びの途中ですが、知らない世界を与えてくれる学習者に日々感謝しています。これからも摂津市がより住みやすい地域になるよう活動を続けていきたいです。関心のある方は、ぜひ一度のぞいてみてください。



あさもりさん（日本語サロン）

日本語サロンでは、週に一度、さまざまな国籍の方と日本語や文化を通して交流をたのしんでいます。ここでは、単に「教える・教えられる」場だけではありません。会話を通じて、私たちが日本の文化や日本語を伝える一方で、彼らの国のことや異文化を知ることができる、そんな相互の学び合いがあるのが魅力です。遠足などの楽しい企画もあり、日常では出会えない人たちとの関わり、そして価値観に触れられる貴重な機会です。「日本語を好きになってほしい」「日本ででの生活の役に立ちますように」という思いで、わたしは活動しています。日本語や文化に興味を持ってもらえたときのうれしさは格別で、毎回新しい発見があります。日本語サロンはそんな温かい交流の場です。



日本語教室から「こんにちは」～せつつ日本語SAIE(火)、日本語サロン(木)～

リアムさん(オーストラリア出身)／サラさん(ドイツ出身)



リアムさん(左)／サラさん(右)

ここはたのしです。せんせいはしんせつです。あたしはるあんまえに日本にりようできました。ここからすんでみたいとおもいました。日本には、いいところたくさんあります。たべものやしぜんぶよくて、ひとめちゃさいです。たけどなつがあついです。日本このべんきょうはたのしです。

リアム ミヨウウィット

日本に来たばかりの七頁は、日本語は全く言えませんでした。でも、Saieに来ると、皆さんとても親切で丁寧でした。Saieで過ごしたヶ月間は、一年間の滞在の中で最高の時期の一つでした。たくさんのおいしい友達を作ることができ、文化についてもたくさん学ぶことができました。

サラ ゲットナー

募集!!

●日本語支援ボランティア

地域で生活をしている外国の方へ日本語学習支援のお手伝いして下さるボランティアの方を募集しています。外国の文化に興味がある、外国の方と交流してみたい、日本語を教えることに興味がある、人と接することが好き...など、様々な方が集っています。経験がない初めての方や外国語が話せない方も大丈夫です。一緒に楽しく交流活動をしませんか？

●ホームページ制作のボランティア

たくさんの方に協会の活動を知ってもらうため、会報誌やホームページ、LINEなどで情報発信をしています。「デザインに興味がある」「ホームページ作成に興味がある」「Web制作の知識・経験がある」という方、小さい子どもさんがいても自宅で空いた時間に活動できます。あなたの得意を活かしてみませんか？

お問い合わせは協会(06-6319-6251)まで。お気軽にご連絡ください。

「م كليلع م السلا (アッサラーム・アレイコム)」(アラビア語で「こんにちは」) 私は、2023年7月～2025年3月にJICA海外協力隊でモロッコに小学校教育隊員として派遣されていました。このように自己紹介をすると、「昔から海外に興味があったの?」「英語や他の言語が話せるの?」など、色んな質問をいただくことがあります。私自身は、海外と聞くと「語学の勉強をして、外国語がたくさん話せる人」「経済的に恵まれた人しか行けない」と心の中で思っていました。派遣を決めたきっかけは、前任校(鳥飼北小学校)で日本語指導加配教員(日本語が母語でない児童生徒の学習や学校生活への適応を支援するため、特別に配置される教員)をしたときに会った方々です。言語の壁や文化・習慣のちがいに直面することもありましたが、それ以上に「言いたいことが伝わった」「色んな国の家庭料理や生活背景を知るなど、日々学びがあって面白い」と関心が広がりました。そして、実際に自分自身が海外へ行って「世界を知ることの楽しさを伝えられる教員になりたい」と思うようになりました。モロッコへの派遣候補者となり、福島県にあるJICA二本松訓練所でフランス語の習得に励みました。しかし、実際にモロッコへ行ってみると、「م كليلع م السلا (アラビア語:アッサラーム・アレイコム)」「Bonjour (フランス語:ボンジュール)」「Hello (英語)」「Hola (スペイン語:オーラ)…」色んな言語の「こんにちは」が飛び交っており、大変驚いたことを鮮明に覚えています。モロッコでは、北部のテトゥアンという街にある公立の小学校で算数教育に携わっていました。モロッコで算数を教えて

いると、いろいろなちがいがありました。例えば、たし算・引き算・かけ算・わり算などの基礎計算が定着しないまま授業が進み、PISAテスト(国際的な学習到達度調査)で多くの課題が見られたり、制度上の関係で留年・退学する児童が多いため、6年生の教室に12～15歳の子どもたちがいたり、子どもたちの力だけでは克服することが困難だと感じました。日本の教科書会社とモロッコ教育省が作成した計算ドリル教材を3～6年生で活用したり、他のボランティア隊員と算数イベントを実施したり、1・2年生向けの教材作成を行うなど、色んな人々と協力しながら多くのことにチャレンジしました。また、現地の生活においても、あいさつだけでなく、「調子はどう?」「家族のみんなも元気?」とお互いに聞き合う習慣があったり、「うちの家で一緒にタジンを食べよう」と同僚や仲良くなった友だち家族が招いてくれたり、「ありがとって日本語で何て言うの?」「あなたの国では、算数をどのように教えているの?」と日本語や小学校での指導法について興味を持ってくれる人がいました。「ここは、あなたの第二の故郷よ」と多くの方が家族のように関わってくださり、改めて、笑顔であいさつを交わすこと、色んな人と食卓を囲んでご飯を食べること、コミュニケーションをとるなかで相手の考えを受け止めながら尊重することの大切さを学びました。これからは、協力隊の経験も活かしながら「多様な人々と学び合うことの楽しさを伝えられる教員」をめざしたいです。



ホンジュラスの学校事情 M.Nさん



北米と南米に挟まれた中米エリアに位置するホンジュラス。私は首都から西に100km進んだラパス県マルカラ市に2018年9月から2020年3月までの1年半、青年海外協力隊として派遣されていました。標高約1200mのこの場所は、朝晩冷涼で過ごしやすい気候です。また、世界的なコーヒー産地としても有名で、カフェ巡りも楽しいところ。私は市内の2校を巡回し小学校の教員に算数指導の助言を行ったり、研修会を開いたりしていました。私が活動していた場所には学区制がなく、1時間かけて徒歩で通学する子もいれば、父親のバイクに乗って通学する子もあり、教室の隅にはよくヘルメットが置いてありました。巡回先の1校は、教室数に対して生徒数が多く、午前の部(1～5年生)と午後の部(6～9年生)に分けて授業を行っていました。午前の部は40分を1コマとし、7時から4コマ連続で授業を行います。その後20

分の間食休みを挟み、10時から3コマ連続の授業、そして12時に下校となります。休憩時間のない時間割の中でのみんなの楽しみは、もちろん間食休みです。午前と午後にクラスを分けるホンジュラスでは給食の時間を確保するのが難しく、また、始業の早さや家庭の経済事情から食事をとらずに登校する子どもも少なくありません。そこで提供されるのが間食(メリエンダ)です。小麦粉や赤豆、油、そして郊外の共同体から仕入れた野菜が各学校に提供されます。それを各家庭に分配し、保護者が当番制でクラスの生徒全員分のメリエンダを用意するのです。保護者が調理室で調理したり、家で作って持ってきたりと学校によってスタイルはいろいろ。子どもたちのためにと実費で肉や果物を買って足し、豪華なメリエンダを作る家庭も……。間食休憩中、多くの保護者が私に「食べなよ!」と声をかけてくれました。6時半頃に家を出ており、朝食をほぼ食べていなかった私にとっても楽しい時間でした。



摂津市国際交流協会

〒566-0021 摂津市南千里丘 5-35

摂津市立コミュニティプラザ 2F

TEL: 06-6319-6251 FAX: 06-6318-6004

Email: office@settsu-saie.org

URL: <https://settsu-saie.org>

開室時刻: 平日 9:30～12:00、13:00～16:30

(休館: 第4水曜日)

会員募集

●年会費: 個人: 3,000円 / 家族: 5,000円

青少年: 1,000円 / 法人・団体: 10,000円 (1口)

●当協会の事業に無料または割引での参加特典がございます。

●「かわら版」のお届けと催事参加申込みなども優先的に受け付けます。

協会 HP

